１３年６月本文他

本文

2013年6月１日

**また低山の一人歩きに戻るのでしょうか？**

　人呼んで「後期高齢者」。

かく申す私奴は今春お仲間入りさせていただきました。

高齢者にも二段階あって、好む好まざるとは関係なしに75才を過ぎると後期に入るらしい。来世に限りなく近づくのは道理ですが、呼び名までが“燃え尽き寸前の可燃ゴミ”扱い・・・。いくら何でもひどすぎます。

私の場合、一昨年までは、リーマンショックを乗り切るべく、辞めるに辞められず第一線で老骨鞭打って頑張ったと言うのに・・・。このご時世にあって、何らお褒めにも与れなかったのは容認するとしても、助走期間さえないままにいきなり後期老齢者呼ばわり。

もじりにもじって、せめて当て字だけでも、“光輝香麗者”とでも変えていただけないものでしょうか？これで、額の皺の一本も消滅する道理です。

確かに体力面では衰えを自覚するようになってますし、生まれてこの方全く無縁であった花粉症には今春から罹患。西方より勝手に押し寄せてきたｐｍ2.5とか黄砂まで悪さをして、後発のヒノキ花粉までにもいじめられる始末。“知恵熱”まで未体験の38度。

敢えて言いたいのですが、「弱り目に祟り目」とはこのことなのでしょうか？

何とも締まらない新緑の候でありました。

世の習いすべからく世代交代。

ご信頼申し上げ、三年間お世話頂いたOB「山歩き会」会長殿はめでたく傘寿。惜しまれて勇退されましたが、新会長殿はアイゼン･ピッケル厳冬登山の雄、副会長も私と同年とは思えないほどエネルギッシュで、単独山行、山中数泊は朝飯前だそうで、「君と歩くと疲れる！！」何て宣ふて失礼千万。先行して休んでいる所にやっと追いつくと「さあ行こう」・・・。

彼らに共通しているのは、生活の一部として日頃から鍛えていることで、相応の年齢になっても山男気質が温存され、体躯は痩身で筋肉が締まっていること。彼我の差は、気力と運動量の差にあるのは紛れもない事実です。

居直りではないですが、恥ずかしながら、何てったってメタボ症候群。70㎏に及ぶ“お荷物”を一歩一歩持ち上げて、下山時にはまた下ろすのですから、勝負にもなりません。

のんびりムードの、月、一、二回ある武蔵野近傍の低山巡りは、高山挑戦に向けてのトレーニングと平然と言ってのけますから、そろそろ私も世代交代を視野に入れて標高を下げ、里山のそぞろ歩きに転換する時期なのでしょう。

とは言え、今でも続けている奥多摩は御嶽山。JR御嶽駅から御嶽神社、日の出山を経由して「つるつる温泉」に至る、バスなし、勿論ケーブルなし。二本足頼りの独り歩きが残された唯一の健康増進法と心得る必要がありそうです。今年も既に４回行っていますが、通い慣れた道、春夏秋冬それぞれの自然の恵みを満喫できる幸せな時間です。

話変わります。

OB会は400人会員がいるそうで、サークルも二十近くある由。その中に、「ウォーキング愛好会」と言うのがあって、こちらなら何とかこなせそう。

先月、特別の計らいにより横須賀港で護衛艦見学を兼ねた集会があり参加させていただきました。

５千ｔ近くある“軍艦”だそうですが、内部は狭いうえ迷路に右往左往、突起物は勿論階段は狭くて急峻、艦内巡りもぶつからないよう目配りが大変でした。

軍事機密の缶詰と思いきや、撮影には制限がなく、自衛隊員も普通のサラリーマンが軍服着ているような風情。

尖閣・竹島あれど、それはほんの爪の先。「日本は平和なんだよなあ～」と、実感いたしました。

実は、自衛隊と名の付く以上、凍り付くような緊張感の中で万事が進んでいると想像していたのですが、停泊中の事もあってかモードはのんびりムード。今回の護衛艦見学こそ搭乗員の緊張感というか、凛々しい軍人魂を垣間見たかったのですが、その辺りは裏切られたようです。

安全や品質保持のために、朝礼を重視して一同整列、ラジオ体操と、全員発声の“指差し点呼”で始まるわが社の方が余程ピシッと決めているのを再評価。

週明けの朝礼で、「自衛隊の規律振りを見習え！！」と訓示する積りだったのに、挙げたコブシの下ろし所がなくなってしまいました。

所で、帰路に着いた時に軍艦に黒スーツ姿の妙齢のご婦人が二人、水兵さんと私語？に及んでいるのを垣間見てしまいました。

いみじくも、軍隊小唄の一節

腰の軍刀に　すがりつき

連れてゆきゃんせ　どこまでも

連れてゆくのは　やすけれど

女は乗せない　輸送船（戦闘機）

当日説明してくれた広報担当女性自衛官も健康そのもののお嬢さん。艦内には女性もいらっしゃるのですよね。

どこかの国の“共同代表”さんが持論展開されていますが、真っ当なご意見であるとしてもこの国は“平和”の真っただ中にあるのですよ。

話ついでにもう一つ。

金曜日に供される海軍のカレーは旧軍時代からの伝統だそうです。航海途上では日付・曜日も忘れがち。そこで、金曜日にはカレーで「週末ですよ」と知らせるのだそうです。

数多存在する痴呆老人治療のひとつに、全国津々浦々、「金曜日はカレー」にしたら？なんて提案はボツでしょうね。

隊員食堂で“金カレー”のご相伴にあずかりましたが、カロリー数値こそ忘れましたが、大盤振る舞いには違いありません。キャベツ千切り付コロッケ、ゆで卵大、サクランボ５粒入りの杏仁豆腐、牛乳一合、カレーは好きなだけよそったトレーにドサッッ。添え物の福神漬けとラッキョウはバケツ単位。食後のコーヒーはお好みのまま。

確かに、「腹が減っては戦(ｲｸｻ)はできません」が、これが一日三食？食生活の改善は俎上に上がっていないのでしょうか？気になります。

自衛隊の名誉のためにお断りしておきますが、私のようなメタボ自衛官は皆無でしたので、注記させていただきます。念のため。

船内見学だけでもかなりの疲労感。口実をこの時期珍しい夏日のせいにして逃げ帰りました。

早くも梅雨入り。ご自愛ください。

表題部の写真

206-4733　タンポポ

①　208-4747（縦位置で、右欄に下記文章を挿入する）　204-4672　205-4706　207-4750

路地にひっそり装いを凝らす可憐な小花達

　先月はあでやかな牡丹、そして、６月になると、梅雨空の下、これまた負けず劣らずのアジサイとか菖蒲を撮りに出ることになります。

　今回は通い慣れた道筋でも見落としがちな、名前さえろくに知らない草花を意識して撮ってみました。

②　209-4763　209-4772

**ヤマアジサイ**

親友の奥様が山アジサイに凝って、大船植物園でこの季節に行われる「日本の自生アジサイ展」に毎年出展されており、仲間同士、アジサイを合言葉にこの地に集まっては旧交を温めるのが慣例でした。

が、旧友は既に亡く、全く無関心だったのに残された友はいそいそと“この手の趣味”に目覚め、この日を“心待ち”する風情すら窺われ、枯らしてしまうのが分かっていながら、図々しくもお裾分けに預かっている次第。

　私にとって草花の類は写す対象であっても、手入れして育てるのは自信ないなあ～。

一昨年は、翌日早々から水遣りをすっかり忘れて枯らしてしまい、去年は香川県産の「剣ヶ峰」なる鉢を頂いたのですが、水遣りは励行したものの、地植えした関係かな？寒さでやられてしまいました。

勿論ですが、今年は丁重にお断りいたしました。

下の写真は、奥さまの今年の出品の一部で、紅色のものは、確か、「くれない」でしたっけ？

もうしばらくすると、花弁が真っ赤に染まるんだそうです。

③　A4縦　DSC-4865を左欄に掲載

「剣ヶ峰」後日談

　上のヤマアジサイの欄で、「剣ヶ峰」は寒さで“凍死”してしまったと書いてしまいましたが、何となく気がかりになり、６月に入って庭の片隅に放置してあった現品を確認した所、何と！！！薄紫の小花がたった一輪、日陰ながら自己主張して咲いているではありませんか。

　早速、水遣りをさせていただき、丁重にバックに赤布をあしらえ、写させていただきました。

③　205-4720

**どう思われますか？**

横須賀基地に行ったのがお初なら、潜水艦を目の当たりにしたのもこの年になって始めてでした。

**この手**の話題に深入りすると、先にも書いた、どこかの“共同代表”さんの様に袋叩きに合うこと必定。

滑りやすい球体の上に良く起立していられるなあと妙に感心したのですが、私よりもっと年寄り先輩曰く、「姿勢がナットラン！！救命胴衣着てる水兵なんて見たこと無い！！！」ですって。

前出の女水兵さんと言い、これまた救命胴衣と言い、ホントなんでしょうか？